

等高線

山に行かない日

後藤隆徳

37年間山に上っている。当然、山に行くことは大好きだ。けど「山に行かない」事も決して嫌いでない。

山は何週間も続くと気力・体力を消耗する。今の年齢だと一週間置きが丁度良い。次山行の研究もゆっくり出来るし、道具手入れの時間も十分取れる。

また、何よりも己の山の行動をじっくり振り返ることが出来る。ゆっくり時間を掛け軌跡を反芻（はんすう）する事は結局、それは安全登山につながる。

そんな日は5時前に起き、まず熱いお茶を入れる。ラジオからNHKの「ラジオ深夜便」が流れる。起き掛けの熱いお茶は実に美味しい。パソコンを起動させながら二杯飲む。パソコンが立ち上ったらまず、メールをチェックする。

どんなメールでも必ず「了解」は返信する。送信者への最低の礼儀と思うし、メールが届きましたのサインだ。メールも返信が長くなると一時間位すぐ経ってしまう。

そのうち新聞配達、足早に散歩する人、御殿場線の一番列車、スズメの声と外は賑やかになってくる。

ホーム・ページ掲示板で会・他の動きを見て家の前の道路と庭掃除をする。柿とカイドウの葉に混じってタバコの吸殻が目立つ。全くマナーの悪さは情けない。

野鳥の餌付けの餌と水を交換し、ついでに草花にもやる。帰りに新聞を持って家に入る。今度の朝日日曜版は楽しい。今週は「一流を育てる」と題したフィギュアスケートの佐藤信夫コーチが選手を如何に育てるかの話が面白かった。

当たり前だが、やっぱり「基本」をしっかりマスターすること。高度な技術を要するジャンプには手をつけず、ステップとスピンを中心に教え、ジャンプの技術を追いがちな国際大会で、いかに大観衆を引き込むような美しいスケートイングを見せるか。

そこがポイントと言う。これをスキーとかクライミングに応用するとどうなるか。スキーならやっぱり目先の技術は置いて、まずはスケールの大きいスキーの習得だろうか。

新聞を大体読んだら二階で溜まった山の仕事を片付ける。まず写真の整理。会山行の集合写真と山行報告書をセットしてファイルする。これは第一回会山行から全て保存・記録してある。ファイルはもう10冊以上になった。

時々、昔のものを眺める。懐かしくつつい見入ってしまう。ちょっとテンションが落ちた時など、見ているだけで元気が湧いてくる。皆、若い。やっぱり10年の「歳月」を感じる。

次は会山行実績を記入する。これも時々チェックして置かないと、すぐ分からなくなってしまう。前半で目立つのは鈴木和、来生、佐野、加藤、峯岸、林、笠間、横山、長岡、私。

毎年頑張っている方、新しい人もいる。会山行は会活動の大きな要だ。会山行を盛り上げなければ、会の隆盛はあり得ない。

そして月二回の会山行はしっかり充実した山行として取り組みたい。全てリーダーにお任せ姿勢でなく、自ら工夫した山行にしたい。

例えば地図読みは毎回、二万五千図を携え地道に努力する。あれは「訓練・慣れ」だから、やれば必ず身につく。地図は自分で購入し備える。そんな姿勢である。

あ、あ、あ、そんな事をしている内に昼になってしまった。昼食は私の当番だ。ワイフに「特製ラーメン」を作る。特製と言っても、ただキムチが入っているだけだが。ラーメンを食べながらNHK「素人のど自慢」を見るのが日曜の楽しみだ。

上手い人、渋い方、ズッコケ三人組、面白い若い衆、元気なお年寄り、と様々だ。だけど不思議と「浮いた人」はいない。皆、足が地に

着いている。何か全体の「調和」が微妙に取れている。私達、山の会も十周年に向けて、益々、そんな会でありたいと願った。

自己紹介

ごとうたかのり。1947生。創立会員。18歳から本格的登山。生涯1100回以上、山に上った。夏は沢、冬は山スキー。

2002年は「日本オート・ルート」を完走。海外はモン・ブラン、ヒマラヤはヤラ・ピークなど。

音楽が好きで昔はジャズ・バンドも経験。「静岡県連の歌」「三島労山の歌」「岳へ」「あこがれの剣」など山のオリジナル曲も発表。

お知らせとお願い・・・

別紙でもお知らせしましたが、私達山の会は2004年2月で創立10周年を迎えます。これを記念し10年を振り返り「10周年記念誌」を発行します。

つきましては会員・賛助会員・特別会員の皆様、会・山・登山・仲間・自然・植物などの「想い」を随筆にしたためて頂きたく、ここに原稿依頼致します。

1. メインテーマは「れいほうと私」。サブテーマは例として「れいほう思い出の山」「れいほうに入会して」「10周年おめでとう」ですが、自由なテーマで結構です。対象は会員・賛助会員・特別会員です。
2. 分量はB5半分～数枚(横書き)で自由です。
3. 書式は等高線「山に行かない日」を例文としました。参考にして下さい。

